

4

No. 207
Apr. 2015

ひこもり従事者研修報告

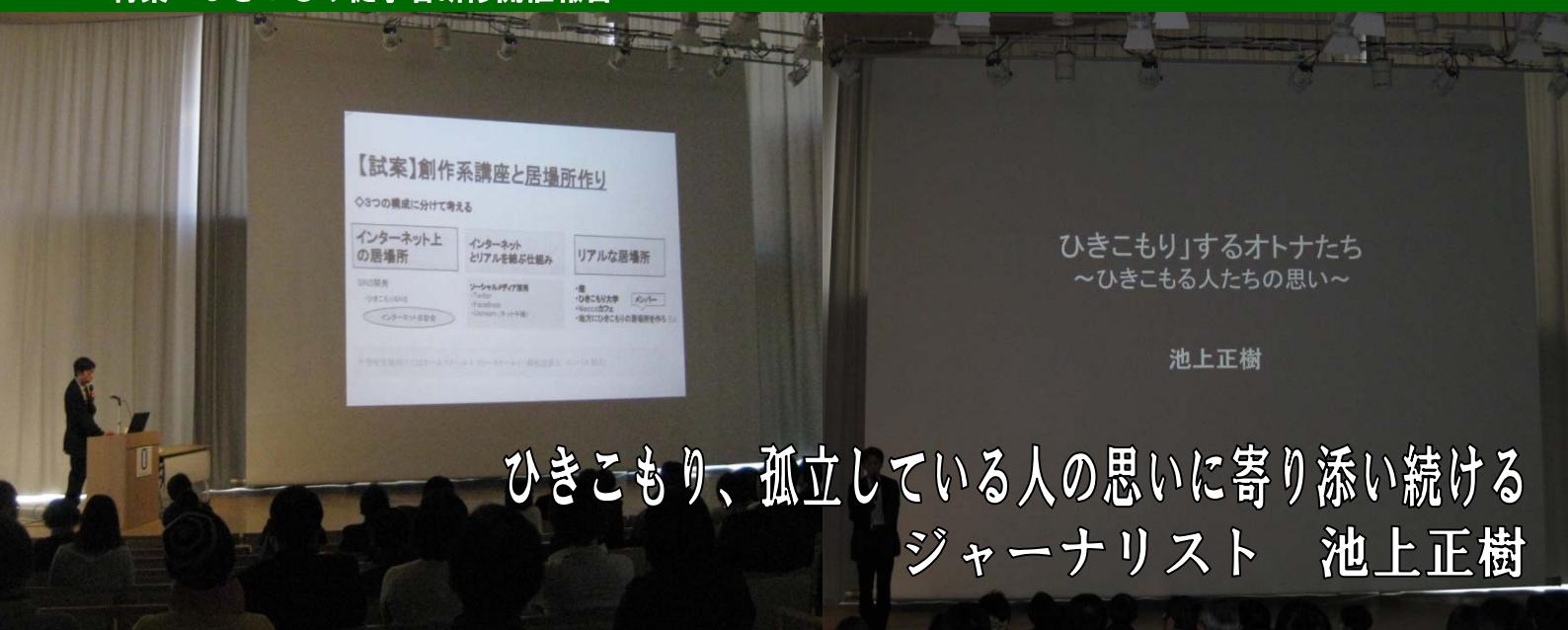
特集：ひこもり当事者と向き合い「社会につながる」仕組みの構築へ

ひきこもり、孤立している人の思いに寄り添い続ける
ジャーナリスト 池上正樹



ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティー誌



ひきこもり当事者と向き合い 「社会につながる」仕組みの構築へ

私は、十八年くらい前から「ひきこもり」の取材を続けてきました。本業はジャーナリストです。最初は記者としてこの問題をずっと取材してきたのですが、平成十二年、ひきこもり家族会が全国組織になった際、同行取材に入ったことをきっかけに、本業を超えてボランティアとして、当事者、家族の方々と一緒に関係性を作り活動するようになりました。

なぜ活動を続けているのかと言いますと、私自身が小学校の六年間、クラスメートの誰とも、一言も話せないという経験があり、非常に辛い思いをしていました。休憩時間になると教室の窓の外に行き、カーテンの内側に入り自

辛かつた小学校時代 緘黙症により

現在、ひきこもり状態にある人の高齢化、長期化が指摘されており、ひきこもり支援の在り方が問われています。家庭の中にひきこもっている多くの方が、公的・民間それぞれのひきこもり支援の場に行かず、支援の手が差し伸べられていないのが現状です。

3月24日(火)、社会福祉法人あすなろ福祉会主催による、「ひきこもり支援従事者研修」を開催しました。定員100名を超える多くの方のご参加を頂き、ひきこもりに対する関心の高さを改めて実感しました。

研修会の内容は、2部構成とし、1部では「岡山市ひきこもり支援の現状と課題」として、岡山市ひきこもり支援センター、ひきこもり支援センターあすなろ（あすてっぷ）からの報告を行いました。

2部では、ジャーナリスト池上正樹さんによる、『「ひきこもり」するオトナたち～ひきこもる人たちの思い～』の講演会を行いました。ご自身の取材経験を基に、当事者・家族の思いを当事者目線で伝えて頂き、ひきこもりを取り巻く環境や支援活動について学ぶことが出来る機会となりました。今月号では、池上正樹さんの講演内容をご紹介します。

最近になって、緘黙症の症状である「かんもくしょう」ということを知り、家族会、当事者会がある事を知りました。もし、その時に情報報を誰かが伝えてくれたら、あんなに辛い思いをしなくて済んだかも知れません。当時、教師も親も、緘黙症について知らなかったのではないかと思います。現在は人前で話していますが、とても苦手です。緘黙症は大人になつても続いている。あの頃の自分のところへ飛んで行けるなら、同じような人がたくさんいる事を教えてあげたいです。

大切なことです。どんな情報でも良いので、出

自分の姿を消してずっと外を見て、六年間過ごしました。私にとっての六年間はとても長く、孤独なのは自分だけだと思っていました。

来る限り伝えていくことが必要です。これは、緘黙症に限らず、ひきこもりの問題にも共通していると思います。この思
いが、私の活動の原泉になっています。

五年前から、ネットメディアの「ダ
イヤモンドオンライン」という中で「ひ
きこもりする大人たち」というタイトル
で連載を続けています。この連載は半年
で終わるはずだったのですが、反響が大
きく五年半続き、今だにランキングでは、
上位にランクインされ、人気の連載とな
っています。

最初は一方通行でやっていたのですが、途中から記事の一一番最後に、アドレ
スをつけるようにし、読者とのやり取り
をするようにしました。記事の反応が知
りたかったのです。

アドレスをつけると、毎日メールが来
るようになり、ほとんどが当事者の人達
からでした。中には、家から全く出られ
ない人からもありましたが、メールを通
してなら話も出来、情報も伝え合うこと
が出来ます。辛いという状況のメールは、
毎日届いていますが、それを出来る限り
同じように苦しんでいる人たちに届け
ることが出来る様、随時発信するように
しています。



兵庫県淡路島

5人刺殺事件の背景

今年三月九日、兵庫県淡路島で五人の
方が殺害されるという事件がありま
した。その容疑者とされる四十歳の男は、
ひきこもり状態が二十年以上続いてい
たそうです。

この事件について、新聞記事を拾い集
め、どのように報道されているのか調べ
てみました。キーワードを拾い上げると、
「四十歳 孤独 地方に住んでいる

姿を見ない 小学校中学校時代は優し
かった、中学校の時のいじめをきっかけに、
高校から不登校になった 中学校の途
中から不登校 高校中退」

近所の人はほとんど顔見知りで、名前
で呼び合える程小さなコミュニティー
でした。容疑者の父親が、息子が外出し
ている姿を見たら、一一〇番通報して欲
しいと、近所の人にお願いしていたそう
です。これ自体が虐待だと思います。外
を歩いているだけで不審者扱いされ、恐
いと周囲から思われていると報道され
ています。本人から見ると、外へ出ると
大切な支援や通報されますので、外出する
のが怖いのだと思います。だから、ひき
こもりがいるを得ないという状況がある
のでしょうか。

記者の中には、「親の愛情不足が原因

だ」とコメントしている人がいました。
又は、「個人の問題である」というよく
ある見方、何とか妄想性障害だと統合
失調症だと、事実は分からぬにも関わ
らず、そのような見方をしている人も
います。

欠けているのは

当事者の視点

私は、非常に重要な部分が欠けてい
ると思います。本人の中で何が起きていた
のか、そういう見方が全くされていません
。当事者の視点がないということなん
です。「本人のやったことは悪いし、そ
んな事件を自分はやらない」と皆言つて
しまう。追い詰められた結果の犯行な
か分からぬですが、家庭の中でも「入
院させる」とか、「通報する」などと言
われ、本人の居場所がなかつたんじやな
いかと想像できます。

ひきこもる入口は様々

大切なのは一人の人間であること

ひきこもりというのは社会から孤立
している状態で、他人との関係性がない
という事ですが、本人の視点から見ると、
どうしてひきこもっているのか理解でき
ません。状況は全く一緒です。我が子もい
つか、と心配しています。何か方法があ
りましたら教えて下さい。いずれの家
族も、このよくな事件を起すのではな
いかと危惧しているという内容でした。



池上正樹氏（左から3番目）と関係スタッフ

四十歳代前後の人たちからが多かつ
たのですが、「他人事ではない、自分も
外部との関わりが途絶えてしまってい

る。最近ではひきこもり就労という強
引な支援が普通になっている。ただ

自分達だって人間。尊重して欲しいとい
うのが本音」。一方、家族からメール
をもらっています。「他人事ではありません。
状況は全く一緒です。我が子もい
つか、と心配しています。何か方法があ
りましたら教えて下さい。いずれの家

族も、このよくな事件を起すのではな
いかと危惧しているという内容でした。

散々社会や学校で傷つけられてきたから、これ以上傷つけたくない、傷つけたくない、迷惑をかけたくないという、生き辛い社会の中で、自分を防御する手段として、ひきこもりざるを得ないという事だと思います。生きる意義とか意力を失つて諦めの境地に立つた人たちではないかと思います。

ひきこもりという概念とはどういうものなのか、私なりに推論しました。人は誰でも大なり小なり凸凹があります。私自身もあります。ただ、凸凹の凹が多くれば、それだけが目立つてしまい、はじかれたりいじめの対象になってしまい、それをきっかけに傷つけられて離脱してしまつ、ということがあります。でも凸凹の凸の部分を活かす事が出来れば、社会で上手くいく可能性もあります。凸凹が抛出している人たちが、発達障害と診断されるのだと思いますが、診断名や定義、二ートなど、実態のないレッテルによって、便宜上分類されることは、あまりひきこもる本人にとって、家族にとっても意味のないことだと思います。

また、年齢で上限を区切る根拠はあります。これまで日本では、ひきこもり支援は三十九歳までとされていました。しかし、考えてみたら四十歳になった途端にひきこもりではない、というのはおかしな話であつて、区切る根拠やエビデンスはないかと思案出来ます。

ンスはないという事なんですね。

ひきこもりといふのは、入り口は様々ですが、状態像が共通していることでひきこもりと呼ばれるだけであり、大切な事は、一人の人間であるという事だと思います。

セーフティーネットの谷間の人たちへの救済措置を

ひきこもる人の特性ですが、「これまでのすごい数（少なくとも数百人）人とお会いしてお話ししていますが、印象はとても空氣を読んで、大変、気遣いする人たちだと思います。気遣いをする余り、ストレスになつて疲れてしまつということが起きているのだと思います。感受性がむき出しになつているからこそ、人一倍色々なものが見えたり、感じられたりするのだと思います。一方で、無神経な人や適當な人は、ひきこもらないのでないかと感じています。

実態を映し出していない ひきこもりガイドライン



本当に救済が必要なのはそのような人達なのです。生きている意義、意欲を失つた、あきらめの境地に立つているのに、そこまでして人のお世話をなつてしまふの必要はないと考え、生活保護などの制度を受けたがらない特徴があります。いくら説得をしても本人は迷惑をかけられないからと言います。本人をやつと説得できても、今度は親御さんが猛反対や妨害されることがあります。そういうセーフティーネットの谷間に居る人をなんとか社会につなげ、生きて行くための支援が、必要なのではないかと考えています。

実際に自治体の調査で島根県、山形県の調査では四十歳以上が半数を超えています。島根県に至つては四十歳代以上が一番多くいました。秋田県藤里町という小さな過疎地では、一件ずつ個別調査を行い、十人に一人はひきこもり状態だつたという結果が出ているのですが、四十歳代が半数近くいました。東京都町田市、保健所の実態調査ですが、四十歳代が約三割を超えるというデータも出ています。

ひきこもりのガイドラインに関してですが、唯一のエビデンスになつてているのは、今から五年前に出されたものです。ひきこもる要因を調べたところ、第一位は発達障害で一七%、四人に一人は発達障害。二三%が不安障害や社会不安障害、パーソナリティー障害でした。これは、全国五か所の精神保健福祉センター

の、外来の方達が対象の数字ですので、医療的な支援を必要としている人々が対象となつて分母となつています。これはひきこもりの全貌を示すようなデータにはなつていません。もう一度調査が必要ではないかと思います。

数字ですが、これが最大の問題です。平成二十一年の内閣府の調査で、七十万人予備軍を入れると二百一十五万人の人がひきこもりであるとされています。これは三十九歳までの調査であつて、三十五歳から三十九歳までの年代が多くこの割合を示しています。今現在では、これらの方々は、四十歳以上になっているでしょう。すでに現実にそぐわないというには間違いないと思います。

島根県に至つては四十歳代以上が一番多くいました。秋田県藤里町という小さな過疎地では、一件ずつ個別調査を行い、十人に一人はひきこもり状態だつたという結果が出ているのですが、四十歳代が半数近くいました。東京都町田市、保健所の実態調査ですが、四十歳代が約三割を超えるというデータも出ています。

ひきこもりの人の数についてですが、異性愛が前提の社会で生き辛さを感じている、セクシャルマイノリティーの方達は、調査対象から外されています。調査書の性別欄に男か女しかないのでですから。かなりの人達がいるはずですが、数字がなかつたことになつてゐるので

又、主婦の中で同じような「ひきこもり」状態になっている人が多くいます。様々な理由があるのですが、妻は夫の所有物だという、昔ながらの価値感に束縛されている人、出産を機に会社を休職あるいは退職し子育てに専念するも、ママ友のコミュニケーションに馴染むことが出来ず疎外感を感じ、社会では活躍できたのに、ママ友の会話にはついていけないといふ話を良く聞きます。

そこにあるのは諦め、沈黙、内面は本質的にひきこもりの人達と変わりません。いつも家においても誰も困らない為、顕在化しないという事が起きています。このようないい人達のひきこもり状態に関して、調査対象から自宅で家事育児と回答したものを除くという項目がありますので、数字に表れています。社会が想定していない人達だという事です。誰でも起こりうるのに、家族にひきこもりの人がいるということ自体が、誰にも言えないという状況が起きててしまい、家の恥だという意識や、友人にも会社の同僚にも言えなくなってしまい、次第に社会とのつながりや情報がなくなってしまう。情報は一番大事なのに、それがなくなると、選択肢がなくなってしまいます。そうするとどうすればいいか分からなくなり、地域の中では「家族」と「ひきこもり」という事が起きています。民生委員さんなど分からぬ状況があります。知られたくないという思いもあり、それが結果的に色々な悲劇になってしまっています。

「こういう状況は日本全国あちこちで

起きていると思います。

本人のペースに合わせた 本人が希望する支援が必要

ひきこもるといつても様々な背景があります。非常にゆっくりとしたペースの人もあります。

しかし、地域サポートステーションでは、半年以内に就労というノルマを課せられているという現状があります。ひきこもり」と「そこに行きなさい」と言われ、行つてはみたものの、いきなり就労メニューを勧められ驚いたという話を聞きます。それぞれの状況に合ったメニュー作りが必要だと思います。

ひきこもり支援においての問題は、基準がないということです。やり方が支援機関により様々で、とても一生懸命やつておられる所もあるのですが、中にはノルマ、数値に重きをおいて、成績至上主義の人達が現れています。

もう一つ問題なのは、**相談には行くけれど、そこから先がない**、という事は本当に良く聞きます。外に出ると言われば、出たらいにに行けば良いのか、将来的の道筋が自分にも家族にも見えない、そのようなことが起きています。

その背景にあるのは、なぜ私以外の他人が、私の人生の事を勝手に決めるのか、

といふ当事者たちの憤りがあるように思います。支援の現場でミスマッチが起きているということです。当事者の目線で、本人のペースに配慮しながら、本人の望む支援の設計は必要です。



ひきこもりからの脱出には 関係性の再構築が必要

「ひきこもり」当事者からのメールで、「挫折してしまう原因は人間関係や支えがなかつた」とによるもの。理解してくれる人が欲しい。孤立が増すばかりです。私は苦しんでいる人の強い味方になるかもしない、それが使命なのかな。ただただどうしていけばいいか手段が分からぬ。」

挫折感を乗り越える為にはどうしたら良いかなどたずねる内容もあり、「一生懸命生きる為に、多くの人達は考えているのです。きちんと分析も出来ているのです。

当事者同士がつながり 発信できる仕組み作り

最近は、生活困窮についての相談がとても増えています。

「自分の部屋で寝たきりで全く出られない。生活が困ついて、寒家暮らしれない。生活が困ついて、寒家暮らしれない。生活が困ついて、寒家暮らしれない。」

私達は、ボランティアで「ひきこもり」から始めた。これは、フラットな関係で、平等にみんなで未来の仕組みを考えいくという対話の場です。企業の中でもイノベーションを起こす為に、大手企業で行われているセッションのことですが、ひきこもりの問題にも特化出来る

このよつなの方々には、きちんと情報を提供してあげる存在が必要なんだと思います。誰に助けを求めるべきなのか、そもそも助けを求めていいのかさら分かれず、声を出したいのにほんの小さな勇気すら湧かなくなる人がいるように思

います。支援の現場でミスマッチが起きています。誰に助けを求めるべきなのか、そもそも助けを求めていいのかさら分かれず、声を出したいのにほんの小さな勇気すら湧かなくなる人がいるように思

特集：ひきこもり従事者研修開催報告

「ではないか」と思い始めました。
このセッションに答えはなく、「ひきこもりが問題ではない世の中」をテーマにセッション（対話）を行います。当事者は、家族・支援者・ひきこもりに関心のあるというすべての人のが対象です。参加している当事者たちが、自分たちで何か出来るかもという可能性を感じられるようになつたと話しています。

偶数月の第一日曜日に東京で開催しています。十数人からスタートしましたが、二月の「庵」は百人を超える参加者が集まりました。半数以上が当事者です。多様な人達があるので、参加しやすいという感想を聞いています。

「庵」のいくつか生まれたアイデアの一つに「ひきこもり大学」というのがあります。当事者が先生になり、ひきこもついた経験や知識・知恵を家族・関心のある一般の人たちに伝えることによつて、周囲の誤解を解き、家族関係を改善していくことにあります。学部学科も話をする先生（当事者）が、自由にネーミングします。生徒は、授業の後、もし価値があると思えたら、その分の金額を授業料として寄付金箱に募金をして頂きます。これは、先生を務める当事者の交通費などの報酬に充ててもらおうといふのが趣旨です。ワンコインで良いと言つていますが、結構な額、一万円から二万円も集まります。

開講された学科のネーミングも様々で、「生きていかたいと思つようになりたい学科」「弱さでつながる学科」「幸せな生き方研究学科」「ひきこもり、不登校、

「ではないか」と思い始めました。

このセッションに答えはなく、「ひきこもりが問題ではない世の中」をテーマ

くらいいの参加者が集まる場合もあります。家族向きで始まつた、「ひきこもり大学」は、テーマを自分たち当事者で決めるので、自分と同じ状況の当事者が遠くからも集まるようになりました。ホームページも作つております。皆でつくる「ひきこもり大学」にしています。

新たなひきこもり支援の仕組み作りに向けて

これからひきこもり策についてですが、今年、三月九日に厚生労働省の社会保障局で課長会議というのが開かれたのですが、総務課長が「」のような発言をしています。

「ひきこもり問題も生活困窮者自立支援法の相談事業の一つとして位置付けた。ひきこもり地域支援センターの事業については、生活困窮者自立支援法の任意事業として継続実施していくこととする。地域の社会資源との密接な連携、協力を」「当事者団体である全国ひきこもりK-H-J親の会（家族会連合会）とも連携協力を」等を骨子として出しています。

今年、四月一日からは、「生活困窮者自立支援法」が始まり、福祉事務所がある市町村で窓口が設置されます。経済的理由だけではなく、社会的に孤立している人など様々な生活困難を抱える人たちも対象に含まれています。相談事業

われる」とになつています。

これまで相談出来なかつた人が、今回の支援制度で相談に訪れることが出来、相談ケースが増えてくる可能性が高いことが予想されています。今後、本人や家族をどのようにして社会とつなげていくのか、というネットワークづくりが重要になつてくるでしょう。

ひきこもり地域支援センターは、行政、支援団体、当事者側である「K-H-J親の会」等でネットワーク作りを行い、様々な社会資源が繋がっていくことが可能となるような仕組みを作っていく必要があります。

更に「これまで、ひきこもり地域支援センターと家族や当事者本人という、相談と支援を行うという関係性だったのが、ここに新たに、生活困窮者自立支援法」に基づく相談窓口が設置されるという事で、ひきこもり地域支援センターと生活困窮者自立支援法に関わる窓口が連携し、情報共有していく事が今後必要になるのではないかと思います。ひきこもり親の会（家族会）が社会、資源と繋がっていくことで、当事者たちの出入りがあり、社会への道筋、生きしていく為の選択肢が増えしていく作業がこれから必要になると思います。新しい家族支援の在り方と仕組みはこれから必要となると思います。

★「ひきこもり」を一言で言つても、その背景や原因は様々である」とを知り勉強になりました。

★「ひきこもりは誰にでも起る事だと思います。そういう時にどのように対処したら良いか、考えさせられる講演でした。

★支援者としては、当事者が安心できる場をどれだけ作ることが出来るか、ということを胸に、続けていきたいと思います。

アンケートから感想紹介

★ひきこもりの人達の気持ちが分かつて、自分だけじゃないんだと分かりました。

★ひきこもりを直そうとするのではなく、認めた上で、色々なやり方を考えていこうとする方法が始まつていて感じられた。

★池上さんがしっかりと取材をされて、当事者である私の代弁をしてくれたと感じました。

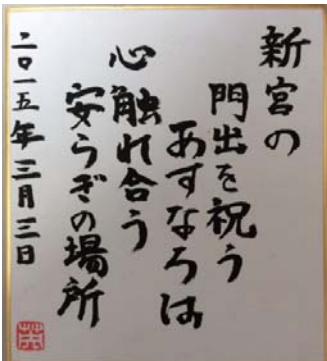
★「ひきこもり」を一言で言つても、その背景や原因は様々である」とを知り勉強になりました。

★「ひきこもりは誰にでも起る事だと思います。そういう時にどのように対処したら良いか、考えさせられる講演でした。

★支援者としては、当事者が安心できる場をどれだけ作ることが出来るか、と



投稿コーナー



瑛聖さんの作品

人生は旅だと人は言う
なら癒やしもまた人生の寄り道
宛ての無い旅ほど
寄り道がしたくなる
寄り道しながら辿り着いた終着点に
人は何を見つけるだろう
思い出に残る記憶は
終着点よりも
寄り道の方かも知れない

匿名希望

4月にはいきましたね☆春に食べたくなるものは何ですか？個人的には桜餅です。見た目の可愛さと塩漬けされた桜の葉のアクセントと香りがたません！！

手芸サークル たまごとり作ったよ☆



平成27年3月13日(金)に6名で手芸サークルを行いました。いつもはそれぞれのやりたい活動を持ち込みで行うことが多いのですが、今回はピアセンタークローバーのマスコットキャラクターである『たまごとり』を一緒につくりました★ 音楽を聴きながら、みんなで作成し、癒しの時間になりました♪かわいらしい「たまごとり」がたくさん完成しました☆☆☆☆☆

四月一日(木)に七名で開催しました。テーマは『印象に残っているアニメについて』で、様々なアニメについての話をしました。

「新世紀エヴァンゲリオン」で最新の映画版はどうかなあという印象だったが、出始めのときに見た衝撃や人類補完計画という内容が印象強く残っている。「ザザエさんの家族構成がいいなあと思う。昔のことを思い出して、ほっこりできる。」「アニメはなかなか見ないけれども、レディースの漫画はよく見ている。ドクタースラップアラレちゃんが一番良い。すごいスピードと破壊力に知能、どれをとっても最高！」

などの話が出ました★その後、『宮崎映画のNo.1は何か』という話題になり、「天空の城ラピュタ」「もののけ姫」「ハウル」「トトロ」「ナウシカ」などの名前が出ました。最後は次回のテーマを話し合い『思い出の歌謡曲』はどうかということになりました。みなさんの参加をお待ちしています。

つどいをしたよ★

四月二日(木)に七名で開催しました。

テーマは『印象に残っているアニメについて』で、様々な

感想・投稿 募集中!
詩、俳句、絵、ジャンル不問です。郵便、メールfax等でご投稿下さい♪待ってます★



古楽日和

藤井健喜

日本人の多くが都市部や郊外の大型ショッピングセンターへ行くようになつてからというもの、日本各地の商店街は寂れてしまつた。多くの人は車を使ってこうした商業施設で買い物をするため、商店街の店のほとんどが店を閉めてしまつた。小さな店が増えには対抗できなかつた。

だが、たとえば毎日の食料品を買いに行くのに、こうしたショッピングセンターへ車で出かけるといつたことを繰り返すとなると、結構大変だ。それまでは徒歩で行ける近所の食料品店やスーパーマーケットがあつたのに、こうした大型施設がてきて競争に負けてしまい店を閉じてしまつたため、これらの施設へ行かざるを得なくなつた、という事態もあるかも知れない。いや実際、近くの店がなくなつてしまつたら、そういうことになる人もいるだろう。さらに、車が使える人はまだいい。体が不自由な人とか高齢者とか、車の運転のできない人は、こうした施設へ電車やバスやタクシーを使わなければならぬ。交通費はかかるし、また面倒でもある。

ある商品が欲しい場合、従来は徒歩で行ける近所の店に行つて買つていたが、大型商業施設ができると、そのあたりでこの近所の店がなくなつてしまつた。そこで仕方なくその大型商業施設で買うことにしたが、従来とは異なり行き帰りの交通費がかかるようになった。こんな状況も大いにあり得ることだ。(次回に続く)

(社福)あすなろ福祉会 事業所移転記念式典＆お披露目会 多くの皆様にご出席頂き、ありがとうございました。

三月二日（月）、（社福）あすなろ福祉会事業所移転記念式典＆オープンパーティーを開催しました。式典四三名、オープンパーティー65名の方がご出席下さり、日頃より当法人の活動を温かく見守り、支えて下さっている皆様方に、新事業所を無事にお披露目することができました。式典では、新事業所の紹介に合わせ、利用者の体験発表を行い、三名の方があすなろの活動を通しての、リカバリーストーリーを語られました。『十七年間の精神科病院での入院から何もできないと思っていた自分がMOMOで働く事ができ、自分にもできることがあると思えるようになった。（Kさん）』『就労支援を受けて就職できた今の職場は、障害を理解してくれた上で、自分を一社員として認めてくれている。私はこの会社で働き続けたい。（Iさん）』『仲間の役に立ちたい、自分にも何かができることがあるのではとピアサポート活動を始めた。今までには病気のことを隠したいと思っていたが、今では誰にでも起こり得る事だからと前向きに考えられるようになつた。（Mさん）』と堂々と語られる姿にこれからへの希望を感じる事ができました。

式典、オープンパーティー共に多くの方が足を運んで下さり、お一人お一人からありがたいお言葉も頂き、皆様に支えられてこの活動があるのだと、あらためて実感致しました。今後も人と人とのつながり、地域とのつながりを大事に、障がいのある仲間たちが、豊かで生きがいのある人生を送れる事ができるような社会を築いていけるよう、邁進していきます。今後共よろしくお願ひ致します。

オープンパーティーも盛り上りになりました♪
みなさまに感謝感謝です。



式典の様子

記念式典の様子



式典の様子

続いて三月三日（火）は、利用者＆ご家族へのお披露目会を開催。六十五名の参加で、新事業所の説明会とグループワークを行いました。グループワークでは、それぞれの夢や希望を葉っぱに書いてもらい、「あすなろの木」を制作。一人一人の「元気の出ることだま集」も作りました♪



記念に写真をパチリ☆



あすなろの希望の木

式典やオープンパーティーに来て下さった方からも
お言葉を頂きました。



グループワークも楽しく話ができ、元気をもらったよ！

お披露目会も多くの方が来てくれました。

元気が出ることだま集

- リカバリ― ○明日晴れるらしいよ… ○サッカー
- フットサル ○ソフトボール ○ありがとう
- 三連休 ○ビール飲む? ○キノコ ○えのき
- 弱気は最大の敵 ○世の中不可能などない
- 一期一会 ○なんくるないさー! ○健康第一
- 大丈夫! ○あなたはできているよ ○感謝
- あなたらしいね ○よく頑張っているね
- ピース ○やったー! ○楽しい心で年をとりたい
- 笑顔でいいさつ ○あすなろ福祉会
- いい笑顔ですね ○聞き上手ですね ○素直
- 元気百倍アンパンマン ○炎爆(好きなバンド)
- わしがやらねば誰がやる ○今やらねばこいつやる。
- なんとかなる ○平和 ○平穏
- まずはできるところから ○Liberation—解放—
- 楽しむ ○つながり ○和
- 明るくて元気など「ころが長所だよ!」
- いつもありがと
- おふくろの味は、コロッケ! ○基礎が大事
- なんとかなるナ ○よく頑張ったね

岡精社協講演会に参加してきました！

三月十八日に行われた、岡山県精神障害者福祉事業者協議会主催の「take action 私たちにできる」という公開シンポジウムに行ってきました！今回は、三事業所の取り組みを紹介していただきました。

まずは、「就労移行支援事業所フリー・デザイン」の発表。障がいのある方が「働く」ことで得る生活の豊かさを大切にしたいと考え、「とりあえずやってみる」という何事にも挑戦する姿勢に活力をもらいました。

次に、「つどいの杜 まりも」の発表。メンバーが安心して過ごせるだけではなく、だれもが気軽に来ることができる居場所づくりを目指す姿勢に、垣根なく居場所が開けている大切さについて考えられました。

最後は、「生活介護事業所ぬかぐるん」との発表。利用者の特技や個性をものづくりという一つのジャンルにして、外に向けて発信する勢いに圧倒されました。紹介される取組一つ一つが、とてもおしゃれでした。

それぞれ分野や活動内容は異なるように見えますが、利用されている方が主体的に活動できることが大切にする姿勢、事業所がある地域や、福祉に関係がない人たちも巻き込んでいく姿勢は共通点であるように感じました。

今回学べたことを日々の関わりやこれから活動に活かしたいと思います。（佐藤）



お花見会／O-O-Hを開催♪

四月七日、護国神社にてあすなる福社会お花見会が開催されました。

今年の花見のテーマは『はるらんまん』つなぎを大切に』といふことで、

このテーマには、あすなるが今年三月に移転し、花見に参加するみんなで仲間意識を高め、今後のつなぎを深めてほしいというお花見実行委員会の思ひが込められています。



家族交流会を開催しました☆

平成二十七年三月一四日に第四回「あすなろ家族の会 家族交流会」を開催しました。移転後初開催ということで表町の新事業所にて一二名のご家族が参加され交流しました。

近況報告と行ってみたい旅行先をお互いに伝え合い、悩んでいることを話し合いました。話題に挙がったことは、「同居している子供が家にこもっていて外へでてくれない。親としては心配で、外へ出るきっかけをどうつくつたらいいだろうか。」という悩みに対し、「自分の子どもも家から出ることができない時期があつた。趣味を通じて外にでる」ことができた。自分の場合はスポーツだった。「親が色々な情報を伝えて、子供が乗り気になつたらラッキー。」「自分の場合は精神科専門の訪問看護に来てもらっている。子供の希望を聞いて一緒に外出をしてくれる。自分にも子供にも良い刺激になつていてる。」「親があせると子供伝わってしまう。気長に待つことも大事だった。必ず何かきっかけはあるはず。」などの意見がでました。

その後、今年度の計画を話し合い、おおまかに予定をたてました。六月には総会を行い、八月には新しくなったMOMOで食事会を開催したい！十月には恒例となつた小森家でのぶどう狩りを今から楽しみにしている。日帰り温泉などのホットができるようなイベントも開催できたら良いな等話し合いました。

Cafe MOMO ついにオープン！

平成二七年三月四日「ぱるスペースMOMO」改め「CafeMOMO」が表町のあすなろ福祉会秦事業所二階にオープンしました。突然の閉店から約一年、皆様には大変ご心配ご迷惑をおかけしました。MOMOにご飯を食べに来てくださったお客様はもちろん、バザーなどの販売でお菓子を買ってくださったお客様、お弁当を注文してくださったお客様、たくさんの方に応援のお声掛けをいただきました。本当にありがとうございました。

さて、一年ぶりのMOMOは、期待と不安が半分ずつ交差する中で始まりました。お客様は来てくださるだろうか？そして満足していただけるだろうか？でも、一時三〇分の開店時間後から次々とお客様が訪れ、二時三〇分の時点では用意していた食数は完売となりました。不手際は色々ありましたが、確かな手応えと新しいMOMOの一歩を踏み出した実感でいっぱいでした。

オープンから一ヶ月がたちましたが、まだまだMOMOは未完成です。どうすれば皆さんに満足していただけるか、笑顔になつていただけるか、スタッフ・メンバー共に意見を出し合いながらMOMOを作り上げているところです。お客様にとつても、私たちスタッフ・メンバーにとつてもMOMOがほつとできる空間、そして元気が出る空間になることを願つて溝進していきますので、これからも応援よろしくお願ひします！

* Facebook(フェイスブック)で様々な情報を発信しています。
* 日替わりランチは食数に限りがあります。事前にお電話いただければお一人様からでもお取り置きすることが可能です。☎ (〇八六) 一〇一・一七八
一八(日・月・祝日定休日)



ケーキセット500円



日替わりランチ 700円

週末ランチ 850円

(週末ランチはデザート・ドリンク付)

いたらその気持ちから解放されるので大半を寝て過ごしてしまって…」「片づけや困る」と、悩む」と。」でした。おひとりおひとりの話したいテーマを皆で共有し合い最後に良いとこ探しを前回同様行いました。また今回は移転後の初開催なのでソフトカクテルを皆で頂きました。

◆次回予定◆◆◆◆◆◆◆

4月21日(火)13時半～
多くの方の御参加を心からお待ちしています。

見学・途中参加も歓迎です！

*他の参加者を批判したり改善を強要しない事を第一のルールにしています。

ソフトカクテル～あすなろ～レシピ
桃カルピス 10ml、メロンシロップ 10ml、レモン
果汁 5ml、ピーチジュース 120ml、最後にブルー
シロップをお好みで加え沈める。
レモンをこぼさないよう、こまかくこぼす。

～ソフトカクテルあすなろのイメージ～
毒く渋くだが心……

青く沈んだ心…

それもやがて、蔑るコケが木々を緑優しく魅せる
ように、人をより他人の苦痛が理解出来る優しい
人間に変えてくれるでしょう

苦痛の中にいる人、苦痛から抜け出そうしている
人、苦痛から抜け出した人

そんな苦痛と向き合う貴方と、ピーチモモ(元気をこめて)とも(同じく)苦痛を味

なスタッフ)とクローバー(同じような苦痛を持つ利用者)が一緒に過ごさせて頂く、あすなろの木(第一歩・出会い・楽しい)の下で…



第五回・六回『癒し場』開催しました♪

「発達障害や対人関係が苦手の人の癒し場」

INFORMATION

4月の予定

4月				
13	月			
14	火	PC講座 10時～ 手話サークル 13時～		
15	水	健康講座「剣道」13時～		
16	木	テーブルゲーム 13時～		
17	金	ソフトボール 13時～ 女子会 14時～		
18	土	お抹茶教室 14時～		
19	日			
20	月			
21	火	PC講座 10時～ いやし場 13時半～		
22	水	WRAP 10時～ 健康講座「ハイキング」12時半～		
23	木			
24	金	23・23・25日は 職員研修のためぱる閉所		
25	土			
26	日			
27	月			
28	火	PC講座 10時～ 芸術活動 13時～		
29	水	昭和の日		
30	木			
5月				
1	金	ソフトボール 13時～		
2	土			
3	日	憲法記念日		
4	月	みどりの日		
5	火	こどもの日		
6	水	振替休日		
7	木			
8	金	ソフトボール 13時～		
9	土			
10	日			
11	月			
12	火	PC講座 10時～ 芸術活動 13時～		
13	水			
14	木			
15	金	ソフトボール 13時～		

※日程が変更になることもありますのでご確認ください

17日（金） おしゃべり大好き女子集まれ！ 女子会♪

毎月1回、楽しい雰囲気の中、テーマを決めて女子トークに花を咲かせています。

時間 14時～15時半

場所 ぱる・おかやま 2階

18日（土）

お抹茶教室

みんなでまたりお抹茶とおいしい和菓子を食べませんか？(^♪)

時間 14時～15時

場所 ぱる・おかやま 2階 ※参加費 100円

28日（火）

芸術活動 絵画・陶芸

絵や陶芸を通して独創的な作品と一緒に作りましょう♪

時間 絵画・陶芸 13時～15時

場所 本部（旧ぱる・おかやま）岡山市中区浜

21日（火） やし場

発達障害・人間関係で悩んでいる方のいやし場

興味のある方はお気軽にご参加ください (*^*)

時間 13時半～15時

場所 ジョブサポートセンターあすなろ

<4月のピア電話相談日>

ピア電話相談とは

同じような病気の経験をしたピサポーター

グループクローバー

が、お電話であなたのお悩みをお聞きしています^~

ピア

電話相談

(086)

201-1719

お気軽におかけ下さい！

	火	水	木	金	土
	14	15	16	17	18
AM	○	休	○	○	○
PM	○	休	○	○	○
	21	22	23	24	25
AM	○	休	休	休	休
PM	○	休	休	休	休
	28	29	30		
AM	○	休	○		
PM	○	休	○		



■ 発行：社会福祉法人あすなろ福祉会

■ 〒700-0822 岡山市北区表町3-7-27

■ 編集：ぱる・おかやま

■ TEL:086-201-1720 FAX:086-201-1713

■ E-mail:pal-oka@mx35.tiki.ne.jp